

2024年度 大学院奨励研究員研究報告書

2025年3月21日

関西学院大学学長 殿

奨励研究員

氏 名	魏 珂楠	印
-----	------	---

指導教員

所属・職名	社会学研究会・教授		
氏名	難波	功士	印

以下のとおり、報告いたします。

研究課題	現代中国ファンダムにおける「正当化」のポリティクス -家父長制とナショナリズムのもとでの女性ファンを事例として-
採用期間	2024年4月1日～2025年3月31日

提出先： 所属研究科事務

※所属研究科→研究推進社会連携機構（大学院）

研究科委員長・研究科長	研究科受付印

研究発表状況（奨励研究員採用期間内に発表したものおよび、近く発表予定のもの）

（１）学会誌等への発表（著者、発表論文名、学会誌名、巻号、発表年月、掲載頁等）

雑誌論文	著者名	魏珂楠	論文題目	現代中国社会におけるファンダムとナショナリズム ——ポスト限韓令期における中国人K-pop 女性ファンを例として——		
	雑誌名	関西学院大学 社会学部紀要		巻号	発行年月	掲載頁
				143	2024年10月	p. 19-p. 37

雑誌論文	著者名		論文題目			
	雑誌名			巻号	発行年月	掲載頁

図書	著者名		論文題目			
	書名			発行年月	頁	
					総頁：	
					担当箇所：	

※論文題目：共著の場合の担当部分のタイトル

（２）学会発表（口頭・ポスター：学会名、開催地、発表論文名、発表年月日等）

学会名		開催地	
題目		発表年月日	

学会名		開催地	
題目		発表年月日	

学会名		開催地	
題目		発表年月日	

研究経過状況（3000字程度）

本年度、博士論文の執筆と投稿論文の作成を中心に研究活動を行い、大学院の研究経費の支援を受けながら、着実に成果を積み上げることができた。本報告では、2024年度の研究活動の概要とその成果について述べる。

まず、2024年の研究の主軸は博士論文の完成であった。春学期においては、博士論文の骨組みを確立し、第3章（私的領域における女性ファンダム文化の実践）、第4章（公的領域における女性ファンダム文化の社会参加とナショナリズム）、および第5章（フェミニズム思想とファンダム文化の交差）を執筆した。秋学期には、内容の深化に伴い、第1章の問題意識および第2章の先行研究を修正し、最終章である結論部分の整理を行った。その過程で、第4章の内容を投稿論文の形に編集し、関西学院大学『社会学紀要』に投稿し、2024年10月に掲載された。また、11月には博士論文『現代中国社会における女性ファンダム文化実践の両面性—なぜ彼女たちは「旧地図」を手に「新大陸」を探すのか—』を提出し、2025年2月の口頭試問を経て、3月6日に研究科委員会にて博士学位の授与が正式に承認された。

そして、博士論文の提出後、研究成果を国際的な学術交流の場に発信するため、英語論文の投稿準備を進めた。第4章を基にした英語論文“Fans and Nationalism in Contemporary Chinese Society: A Case Study of Chinese Female K-pop Fans in the Post-THAAD Period”は、SSCIジャーナル“International Journal of Cultural Studies”に投稿され、現在査読中である。また、第5章を基にした英語論文“Neoliberal Feminism with Chinese Characteristics: Lisa’s Crazy Horse Show and the Gendered Discourse of Freedom in China”は、SSCIジャーナル“Feminist Media Studies”に投稿予定（2024年3月末）である。これらの研究は、文化研究の視点から、トランスナショナルなアイドル文化を消費する中国の95後世代の女性ファンの文化実践の両面性を明らかにするものである。本研究は、家父長制とナショナリズムが交差する権力構造の中で、女性ファンダム文化がどのように位置づけられ、またそれに対してどのような批判的な応答がなされているかを考察することを目的とする。

最後、博論の概要を報告する。本論文の目次は以下の通り、7章から構成されている。

第1章 序論

第2章 中国社会における二重の権力構造と女性ファンのスティグマ化

第3章 研究方法・研究対象の概要

第4章 「旧地図」を手に、「ママ」を自称する若い女性ファンたち—私的領域における、良識ある母を自認するアイデンティティ—

第5章 「旧地図」を手に、「社会に有益なコミュニティ」「愛国者」を語る女性ファンたち—公的領域における、正当な市民・国民を語るアイデンティティ—

第6章 フェミニズムの急速な浸透のもと、「新大陸」を探す女性ファンたち—インタセクショナリティとアイデンティティの現在—

第7章 結論と今後の展望

本論文は、現代中国社会における女性ファンダム文化の実践とフェミニズム思想の交差を分析し、家父長制・ナショナリズム・グローバル資本主義の狭間で展開される中国の女性ファンダムの特徴を明らかにすることを目的とする。本研究では、特に95後世代の女性ファンに焦点を当て、彼女たちがいかにファンダム文化を通じてジェンダー・アイデンティティを交渉し、社会的・政治的主体性を構築しているのかを考察した。

第1章では、本研究の背景と研究課題を提示し、研究の目的と意義を明確にした。近年の中国における女性ファンダム文化の発展とその社会的・政治的影響を概観し、特にフェミニズムとの交錯がどのような形で表れているのかという問題意識を設定した。さらに、新自由主義フェミニズムと社会主義フェミニズムの対立、そしてナショナリズムの影響を受ける中国の女性ファンダムの複雑な構造について概観し、研究の必要性を論じた。

第2章では、ファンダム研究・ジェンダー研究・中国社会におけるフェミニズムの発展に関する先行研究を整理し、本研究の理論的枠組みを提示した。特に、西洋のフェミニズム理論と中国独自の社会主義フェミニズムの比較を行い、それが女性ファンダム文化の実践にどのような影響を与えているのかを考察した。加えて、「文化実践の両面性（negotiated practice）」という視点を導入し、女性ファンが伝統的なジェンダー規範を維持しつつも、同時にそれを変革する主体であるという二重の立場を持つことを明ら

かにした。

第3章では、研究手法としては、半構造化インタビュー、ネット上の参与観察、オートエスノグラフィーを組み合わせ、文化実践の多層的な側面を批判的に検討した。

第4章では、女性ファンダム文化が私的領域でどのように展開され、女性たちがどのように自己表現を行っているのかを考察した。特に、中国のC-pop女性ファンがいかにしてアイドルとの関係を通じて「母性的な」ファンシップを構築し、既存の家父長制的価値観と交渉しているのかを分析した。彼女たちは、アイドルを単なる消費対象ではなく、育成・支援する存在として捉えることで、社会的に受容される「理性的な女性ファン像」を構築しようとしていることが明らかになった。

第5章では、女性ファンダムが私的領域を超えて公的領域に積極的に関与することで、社会的・政治的な存在として認識されていくプロセスを分析した。特に、中国のC-popファンが社会貢献活動や愛国的な行動を通じて、ファンダム文化を社会的に正当化しようとする動きを取り上げた。また、K-pop女性ファンが国家主義的言説の影響を受けながら、アイドル文化とナショナリズムを結びつけていく過程を考察した。

第6章では、中国の女性ファンがフェミニズムとどのように向き合い、アイドル文化を通じてジェンダー意識を変容させていくのかを分析した。さらに、LisaのCrazy Horse公演をめぐる論争を事例として、新自由主義フェミニズムと中国社会の価値観が衝突する場面を分析した。特に、西洋のフェミニズム思想が中国の女性ファンの間でどのように受容され、批判されているのかを検討し、彼女たちが「西洋のフェミニズム」と「中国の社会主義フェミニズム」の間で独自の立場を築こうとしていることを明らかにした。

第7章では、本研究の成果を総括し、中国における女性ファンダム文化が持つ両面性（適応と抵抗）を明確に示した。女性ファンたちは、伝統的なジェンダー規範に適応しながらも、それに対する交渉を行うことで、新たな女性像を模索していることが明らかになった。今後の課題として、より長期的な視点から女性ファンダムの変遷を分析し、ポストMeToo時代の女性運動との関係を明確にすること、また東アジア全体での比較研究を進めることを挙げた。

本研究は、従来のファンダム研究やフェミニズム研究を超え、現代中国の女性ファンが国内外の文化的・政治的影響をどのように交渉しながら自己表現を行っているのかを明らかにする新たな試みである。本年度の研究経費の支援により、博士論文の完成と投稿論文の執筆という重要な研究活動を遂行することができた。今後は、英語論文の掲載に向けた査読対応を進めるとともに、本研究の成果を国際学会で発表し、より広い学術的議論へと展開していきたいと考えている。

最後に、本研究の遂行にあたり、関西学院大学の大学院奨励研究員の支援を受けることができたことに深く感謝申し上げる。